

新西町内会広報

発行責任者
小関 日出男

令和2年度新西町内会定期総会

4月12日に開催

令和になって初めての総会が4月12日に開催される。新年度は2年ごとの役員改選が行われる。町内会を取り巻く環境は取り立てて大きく変わっているとは言えないが、高齢会員に対応する取組のあり方、会員数の減少、各行事の参加者が少ないなど、従来から未解決のまま残されている課題がある。今後、どう対処していくべきなのか、次のおり課題を提示する。

①会員参加型行事としては、春と秋に行っている清掃のほか、子供みこし、グラウンドゴルフ、焼き肉パーティ、麻雀大会、新年会などがある。参加者が少ない上に顔ぶれはいつも同じ。参加者を広げるには、どうすればよいのか。
②役員のなり手を捜すのが難しく、何10年も務めていると嘆いている高齢の役員がいる。町内に居を構えてこの地を終わる棲家と決めた方には、一念発起を期待する。
③会員数の減少を考慮し、専門部の一部を統合して役員数を減らしてはどうか。
④当会には22の班があるが、最多の班で18名の会員、最小は4名。また、10名以上は11

班あるが、9名以下の残りの11班については合併を検討する必要があるか。

⑤子供みこしについては、町内の子供が少なく、特にみこしを担ぐ子供（小学高学年、中学生）が少ない。現状は、ツテを頼りに高校の部活に応援を得て行っている。外部の力を借りてまで行うのか、それとも小学生を中心に小さいみこし、又は親と子による親子みこしとはしないのか。

以上、今後の会の組織と運営のあり方や整備、参加型行事の見直しのほか、生活安全活動、環境活動などについても貴重な意見の出てくることを期待している。（小関）



新型コロナの影響でひっそりとした新西会館前

◆ごみ集積所 — こんな話も —

ゴミ箱の利用は多いのに雪はねは2人だけ。こんなこぼし話が役員会で出ていた。特定の人が除雪や掃除をしているのが実態なんだろうと思う。人のいい人がやらざるを得ず、あとの人は知らんぷり。そこでこんな話を紹介する。ゴミステーションの場所を移動したとき、町内会幹部から「2年我慢してくれ」と押しつけられた。しかしその後、何度か動かしてほしいと言ったが聴いてもらえない。こんな問題が町内会に持ち込まれたことがあった。そのときは、利用者全員に

集まってもらい、移動先の希望や当番制を取り入れ、月ごとに引き継ぐことで解決した。当番標識を作ったこともあり、忘れる人もなく、うまくいっているようだ。（川原）



3月はパソコン教室などの活動が全て中止に

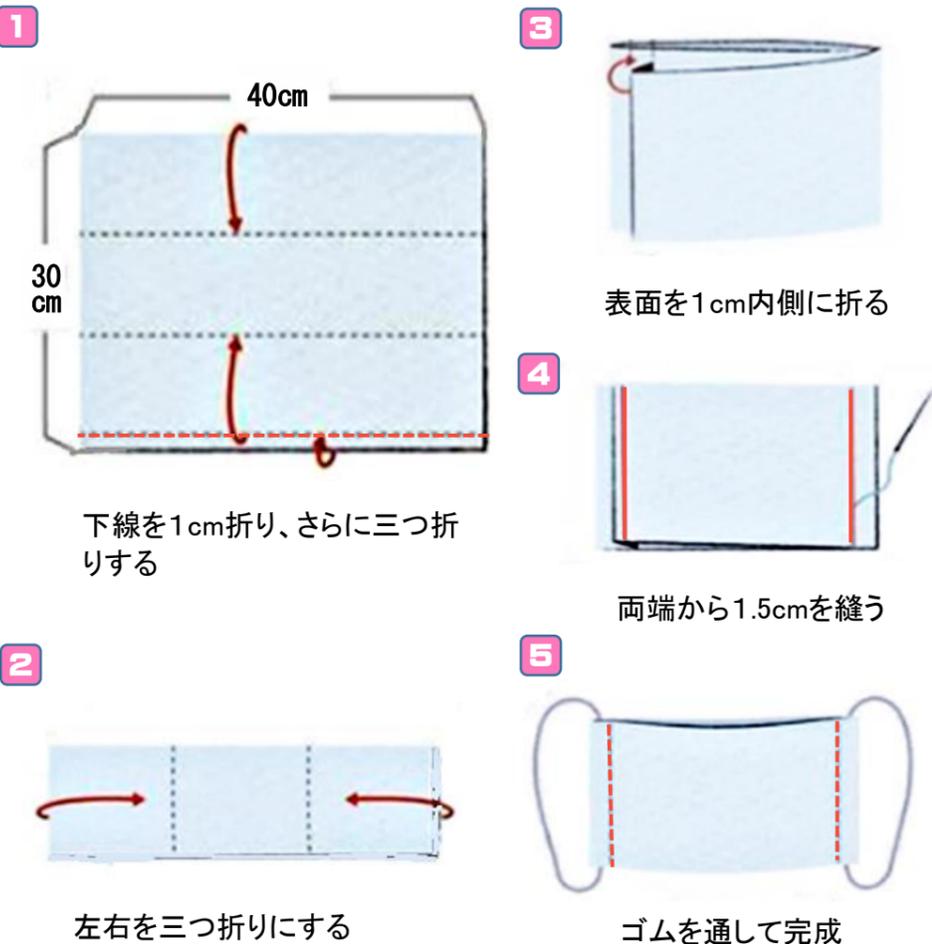
◆知らない音？ 聞いたらどうする

火災報知器の音を聞いたことがありますか。なくても自分の家なら捜すから分かります。それが隣の家から聞こえてきたら、火事だと分かりますか？ “火事だあ火事だあ”と叫ぶなら分かるけど、“じい・ばあ”と聞こえたら、さてあなたならどうしますか。耳慣れない音が長時間聞こえたら“119番”しましょう。消防がパトロールに来てくれます。まだまだ火のお世話になります。火事は怖いですが。地震雷：（火防防犯部）

◆ ガーゼや布を使ったマスクの作り方

新型コロナウイルス感染予防のため、参考としてマスクの作り方を紹介します。

なお、チラシでお知らせしましたが、8条西6丁目の山本幸弘様からガーゼハンカチを200枚いただきました。マスクに転用できますので、ご希望の方は、申込み用紙を新西会館の郵便受けに投函してください。



◆再生資源の回収にご協力を

4月の回収日は7日（火）です。午前9時までに玄関先に出してください。

編集後記

アカデミー賞で3部門を受賞した映画“1917命をかけた伝令”を見た。第一次大戦のフランス西部戦線でドイツ軍と戦うイギリス軍伝令兵の物語。場面を切り替えず全編ワンカットで撮影した話題作。戦場の描写には迫力があり、悲惨さも告発している▼その翌年、ヨーロッパ戦線から引き上げたアメリカ軍が感奮を自国に持ち込み拡散したが隠蔽し世界に蔓延したのが「スペインかぜ」。流行していたスペインは公表していたため汚名を着せられたインフルエンザである。感染者は5億人、死者5千万人以上、人類最初の流行IIパンデミックになったという▼隠蔽したことが拡散の原因だったが、今回の新型コロナウイルスもかの国が発表者を逮捕してまで無いことにしようとしたのが始まりである▼2ヶ月余り危機感も薄く、対策らしい対策をせず、ここに来て首相が記者会見で訴えたことにより一定の認識は広めたが、それにつけても後手後手で不安を助長。マスクの不足などから医療崩壊の兆しさえ思わせる▼冷静になり、よく食べ十分に睡眠をとり、体力を付け免疫力を高める。手洗いとうがい、毎晩のアルコール洗浄でウイルスに勝つ。（小関）